

メディア芸術・映画ワーキンググループ論点（案）

1. 質の高い作品の発表・鑑賞機会の確保について

（論点例）

- メディア芸術祭の質的・量的充実を図り、より国際的なフェスティバルとして発展させるためには、どのような方策が考えられるか。
- メディア芸術の国民の鑑賞機会の充実を図る観点から、どのような方策が考えられるか。

2. 作品の保存（アーカイブ）について

（論点例）

- メディア芸術関係資料のアーカイブを形成するためにどのような方策が考えられるか。
- 関係機関（国立国会図書館等）とどのような連携を図っていくべきか。
- 現物を所有しない状況でのデジタルアーカイブをどう考えるか。
- 近い将来、映画を含めた映像作品については、制作過程から最終成果品を含め、全てデジタル化されると予想されることから、デジタルデータのアーカイブ方策についてどのように考えるか。

3. 関係機関の連携及び国内外への情報発信について

（論点例）

- 分野横断的なネットワークの形成や情報拠点の形成について、どのような方策が考えられるか。
- 産業や観光と連携しながら、メディア芸術を振興する方策としては、どのようなものが有効か。

4. 人材の育成について

（論点例）

- 大学等の教育機関や産業界と連携・協力しながら優れた人材を育成するためには、どのような方策が有効か。
- 各分野特有の人材育成についてどう考えるか。
- 分野横断的に若手クリエイターが相互に刺激し合い、交流するための方策としてどのようなことが考えられるか。

5. 映画支援の在り方について

(論点例)

- 日本映画の多様性を担保していくために、どのような映画を支援すべきか。また、支援を行う作品数の規模をどのように考えるべきか。
- 現行の支援制度では、アニメーション映画（特に、小規模作品及び短編作品）については、ほとんど応募がない状況にあり、制度が現実に合わせていない可能性が高い。今後、良質なアニメーション作品が多数製作され続けるという状況を下支えするためには、どのような支援が必要か。
- 質の高い映画が製作されることを促すという観点から、支援を受けて製作された作品の質の評価をどのように考えるか。
- 今後も全国各地において多様な映画が鑑賞できる状況を確保するためにはどのような視点が必要か。
- 実写映画分野において既に実施している人材育成施策（インターンシップ、若手映画作家育成等）の効果も踏まえ、その充実方策としてどのようなことが考えられるか。